

# 幼児が運動あそびを通してルールを覚えていくには

—保護者と園児の聞き取りを中心に—

林 喜弘 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 佐藤 馨

キーワード：幼児，運動 遊び

## 1. 緒言

筆者はこれまで、大学が行っているキッズプログラムで、県内の幼稚園や保育園を回り、園児にキッズスポーツやキッズサッカーの指導を行ってきた。キッズプログラムの場で、たくさんの園児と交流を持つようになり、幼児が運動、遊びを通してどのように成長を遂げるのかに関心を持ち、その中でも、運動、遊びを通してどのようにルールや約束事を身に付けていくのか調べることを目的とした。

## 2. 研究方法

### 1) 調査対象者

滋賀県大津市A保育園 年中児7名 年長児10名、とその保護者と担任の先生4名

滋賀県大津市B保育園 年長児13名、とその保護者と担任の先生1名に調査を実施。

### 2) 調査時期・調査方法

A保育園は2012年9月24日に調査を実施。直接足を運び、幼児の運動遊びに関するアンケート用紙を配布。10月9日に回収。

B保育園は2012年10月15日に調査を実施。直接足を運び、幼児の運動遊びに関するアンケート用紙を配布。10月22日に回収。

\*園児のアンケート調査は、保護者が子どもに質問し、保護者が記入する形で行った。

## 3. 結果および考察

アンケートの結果、近年、こどもの運動能力の低下が社会問題になっているが、こどもたちの運動や遊びなどの、体を動かして遊ぶことに対する意欲は高いことが明らかになった。

(78.6%)

こどもたちの運動や遊びに対する気持ちは高いことが分かったが、運動や遊びができる安全な環境が整っていないことが現状であることも分かった。

家庭でのルールや決り事がある園児は比較的、規律面への対応力があることが分かった。

「家庭でのルールが少しある」66.7%、「家庭

でのルールがたくさんある」30%

保護者はこどもに運動、遊びを通して体の成長だけでなく、心の成長も願っていることが分かった。

運動や遊びは、人とコミュニケーションをとり、コミュニケーション能力を養うこともでき、遊びや、運動でしか学べないこともあることが明らかになった。

近年、保護者と、子どもと一緒に遊ぶ時間が減少していることの原因として多いのは共働きの家庭が増えていることが関係していると分かった。

こどもは失敗を繰り返し、何度も挑戦をして多くの経験を積むことでルールを頭だけでなくからだに付けていくことが分かった。

園の教員や保護者に言われて、行動することもあるが、本人の意思で動き、実践していく姿勢も見られることも分かった。

## 4. まとめ

本研究により、運動や遊びを通してルールを覚えて成長していく機会が少ないという点に着目し、ルールがこどもたちの成長にどう影響を及ぼしているのか、という方向性の研究も必要だと感じられた。今回の研究によって社会問題にもなっているこどもたちの運動低下に関する問題に対して、少しでも解決できるような方法を見出して、こどもたちに関わらず社会全体の明るい未来創りに貢献したい。

### 【引用参考文献】

1) 幼児におけるルールと具体例の関係理解レベルと転移課題解決との関連について

著者 植松公威 教育心理学研究 45. 148～157. 1997年

2) 幼稚園教師の運動遊びに関する指導理念の調査研究 著者 柳田信也 国際学院埼玉短期大学研究紀要 29. 21～26. 2008年

3) 中俊博・大河内知恵 (2006)

